

記事内容

- ☆平和行動 in 根室
- ☆NPO訪問ツアー / 第43次欧州労働者福祉視察
- ☆関東ブロック連絡会 2011年度海外視察
- ☆埼玉県最低賃金 / 労働時間適正化キャンペーン / 埼玉シニア連合ボウリング大会
- ☆カンパ活動 / もうすぐ選挙 / 11月の行動予定表
- ☆あけぼのビル

北方四島返還 2011平和行動 in 根室

日程

■「北方四島シンポジウム・パネル展」

時間：13:30～15:00
 会場：根室市総合文化会館
 内容：テーマ「北方領土・四島返還の問題点」
 【第1部】基調講演
 【第2部】ルディスカッション

1日目
(9/10)

■「北方四島学習会・パネル展」

時間：16:00～17:00
 会場：北海道立北方四島交流センター(ニ・ホ・ロ)
 内容：返還運動の歴史や四島の自然、在島ロシア人の暮らしを学ぶ

■「2011平和ノサップ集会」

時間：11:00～12:00
 会場：納沙布・望郷の岬公園
 内容：主催者挨拶 地元歓迎挨拶 来賓挨拶
 来賓紹介 元島民の訴え
 平和メッセージ 特別報告 平和リレー
 集会アピール採択 がんばろう三唱

2日目
(9/11)

■「うまいもん祭り」

時間：12:30～14:00

参加者

- 小日向辰也 (UIゼンセン同盟埼玉県支部)
- 太田 正貴 (JAM埼玉/リズム時計労働組合本社支部)
- 町田 義夫 (情報労連/NTT労働組合テルウエル東日本グループ総支部首都圏北分会)
- 高橋 千絵 (情報労連/NTT労働組合テルウエル東日本グループ総支部首都圏北分会)
- 吉田 耕司 (運輸労連/ヤマト運輸労働組合西埼玉支部)
- 渡辺 裕次 (運輸労連/全日通労働組合埼玉支部)
- 相場 克己 (JEC連合/関東化学一般労働組合)
- 木村 隆治 (運輸労連/ヤマト運輸労働組合埼玉支部)
- 成田 信吾 (さいたま市地域協議会/埼玉交通大宮支部)
- 西島 光昭 (さいたま市地域協議会/JR東労働組合大宮支部)
- 神永 隆 (川口・戸田・蕨地域協議会/NTT労働組合川口分会)
- 山田 輝 (県央地域協議会/旭化成バック労働組合)
- 椎名 孝文 (熊谷・深谷・寄居地域協議会/NTT労働組合熊谷分会)
- 内田 豊 (本庄・児玉都市地域協議会/三洋メディアテック労働組合)
- 久喜 伸昭 (秩父地域協議会/菱光石灰労働組合)
- 酒寄 友宏 (連合埼玉青年委員会/情報労連)
- 田中 保世 (連合埼玉女性委員会/電力総連)
- 田口 文男 (連合埼玉執行部/情報労連埼玉県協議会)
- 松本 文江 (連合埼玉職員)
- 小穴真一郎 (連合埼玉副事務局長)



田口 文男

「2011連合平和行動in根室」が、9月10日(土)～11日(日)の二日間にわたり開催された。

根室市内で行われた「北方四島シンポジウム」・「北方四島学習会」、そして納沙布岬を会場にした「2011平和ノサップ集会」に参加した連合埼玉構成組織の20名は、元住民の方などパネリストからの当時の生活や苦勞、島に寄せる熱い思い、さらにはびざなし交流などの話を聴き、北方領土問題に対する認識を新たにするとともに、これまで以上に世論喚起の必要性を感じた。



小日向 辰也

1996年、自民党・橋本龍太郎氏が時の首相時代、「4島ではなく、2島でも…」との外交があったことを思い出します。各メディアも取り上げ、北方領土問題がクローズアップされた時期だったかと思います。「2島返還?なにあまいこと言っているの!」なんて思っていたが、今思えばそれも外交手段の一つであって「海老で鯛を釣る」だったかもですね?

ターニングポイントは、将来必ずやってくると思います。私たちは労働組合を通じ、粘り強く返還運動を続けていきましょう!



太田 正貴

今、北方領土はロシアのクリル計画が進み、労働環境・公共施設・病院・学校・空港・観光地等が整備されつつあります。数百億レベルの投資による復興計画はスピードの差はあるものの予想以上のスピードで、住民の気持ちも環境整備に向きつつあるとの説明もありました。今、私たち日本人は、返還課題を念頭に北方領土のあり方・返還後の姿について政治・民間が一体となり、次世代へのパトタッチを行っていく必要性を痛感しました。



町田 義夫

現在の北方領土を元島民の方から写真を見せていただきながら説明を受けましたが、新しい学校・保育園・公園、特に道路の舗装工事進む光景を目の当たりにして愕然としました。「もう返って来ない!」とってしまったのも事実ですが、今回学んだ事を周囲に語り継ぎながら、真剣に返還出来るためにはどうすればよいのか考えて、今後、行動したいと考えます。



高橋 千絵

北海道の平和行動と聞いて、始めはピンときませんでした。それだけ北方領土に対する意識は、風化し始めているのではないかと思います。実際に納沙布岬に立ち、島が目視でき、一番近い島まで数キロしか離れていないことに驚きました。今回の行動を通じ、この問題をもっと身近なものと感じ、風化させないことが大切だと実感しました。



最東端でガンパロー



木村 隆治

私は、今まで北方領土返還という日本の目標をテレビ報道でしか知らず、あまり自分自身には関係のない話としかとらえていませんでした。この程、平和行動in根室に参加させてもらい、感じたことは自分自身が重く受け止め、まわりの人に熱く伝えて日本人みんなが声を大にして行動を起こさないと叶わない夢で終わってしまうような気がしました。

ノサップ岬より遠くに見えた国後島は、早く日本の領土に戻りたいと声を発しているような気がしました。



四島のかけ橋

集合写真



渡辺 裕次

平和行動が6月の沖縄から始まり、広島・長崎、最後に根室と行われている。沖縄・広島・長崎は、戦争の悲惨な現実を語り、聞いて、戦争の悲惨さを実感してきましたが、今回の根室は少し違った感じがした。昭和20年8月、旧ソ連は、日本に対して、対日宣戦を布告し、日本に進行してきた。ソ連は満州国・樺太、朝鮮半島、手島列島に侵攻してきた。結果、ソ連は手島列島、南樺太、歯舞諸島、色丹島を占領し、現在に至っている。ソ連の進行により多くの日本人が国を奪われ、シベリアに抑留され、約65万人の人達が強制労働に従事させられ、6万人を超える尊い命が奪われた。土地、家を奪われ、日本に帰って来た。

元島民の人達も高齢になり、故郷の思いを語り、聞いた時に、1日も早い返還を求めていくことが大切です。四島一括返還を職場で、地域で進めていきたい。



相場 克己

9月11日、ノサップ集会の会場に着くと連合島根の仲間による竹島の領土権確立を訴える声が迎えた。岬に立つと歯舞群島の貝殻島、水晶島及び国後島が間近に見えた。1969年3月、アメリカ統治下の沖縄を旅し、最北端の辺戸岬より与論島に思いを寄せた時の感慨が蘇った。沖縄の復帰は様々な問題を抱えながらも1972年5月に実現した。日本固有の領土である四島返還は展望が開けていない。国民運動の前進を図ることに関心を持ち続けた。



竹島も日本の領土です



成田 信吾

「北方領土は日本の国土」と子どもの頃から教えられてきました。何故いまだに返還されないのか。国や各機関は外交交渉や交流事業をしてきたそうですが、残念なことに返還されていません。旧島民の方は「生きている間に返還されることを願っています」と語っていました。旧島民の方には時間があまり無いのです。私も、この問題に対しては、今まで以上に関心を持ち、各方面に返還のアピールをして行きたいと思います。



西島 光昭

私は今回の平和行動で、北方領土の問題について、私の知識・認識は上面でしかなかったことが思い知らされ、また別の面で怒りが湧きました。

それは戦後66年経っても元島民の方々にとっては「戦中」であるという事です。当時、ソ連が不法な占拠を行った事が問題ですが、しかし現実的には、日本政府から見捨てられていると感じました。これは、広島・長崎、そして福島にも言えると感じました。



神永 隆

それまでの自分の北方領土に対する認識（歴史・現状、今後等）は、この平和行動で大きく変わった。9月10日（土）根室でのシンポジウム及び学習会、11日（日）納沙布岬での平和集會に参加するなかで、改めて北方四島が当然我が国に帰属すべき領土であるということ。そして、一人でも多くの人にこの正しい認識を深める取り組みを、連合に集う我々が地域において展開していくことが重要であると強く感じた。



山田 輝

今までメディアや機関紙にて北方領土について知見が無かったのですが、やはり自分の目で見て感じる事の大切さを痛感しました。天候が良く、歯舞群島等見る事が出来ました。本当に近い、の一言。不法占拠しているロシア、解決に時間が要している日本政府に憤りを感じました。この問題は元住民が減れば減るほど、風化するのではと危惧します。早期解決を強く求めると共に返還の呼び掛けを継続・拡大の必要性を感じました。



椎名 孝文

「平和行動in根室」に参加し、特に印象に残ったのは、元島民の得能講師が訴えた「島を占領された時の恐怖と不安」についての話でした。四島に住んでいた全住民の平和と全財産を奪い、更に強制的に追放してロシア領と言い張っている事実を再認識しました。また、ロシアが莫大な予算を投じ、港湾・空港等のインフラ整備を進め、ここ数年で約変した事実を知ることができました。そして目に見える「近くて遠い島」の一日も早い返還を実現するため、周りの人にその事実を語り継ごうと心に強く誓いました。



内田 豊

今まで、広島・長崎への平和行動には参加してきたが、今回は領土問題をテーマとした根室集會に参加させて戴くことになった。共に戦争の結果であり、今なお故郷へ帰れない人々の切なる声を聞き、私たちが声を上げ続けていくことが強力な世論となって政府を動かし、その結果、ロシア政府にも交渉のテーブルに着かせることができると思っている。



久喜 伸昭

北方領土に関する認識は恥ずかしながらほとんどなく、平和行動に参加したことで北方四島の問題や現状が少し理解出来た気がします。

今現在、ロシアが巨額な予算を投入して島の開発を進めている状況の中、今後、四島返還は険しい道になると思いますが、私達が出来る事は、北方領土の問題や現状をより多くの人達に正しく知ってもらい、風化させないことが重要だと感じました。



うまいもん祭り



酒寄 友宏

第二次世界大戦終結後に不当に占領されたのはや66年が経過した北方領土の現状を勉強に行きました。ロシア（旧ソビエト）本国からも「見捨てられた島」と呼ばれていた北方領土も、今では莫大な資金が投入され、港湾整備・幹線道路の舗装・温泉設備の新設等々、凄まじい勢いで開発が進められているとのことです。そんな現状を見聞きすると、ますます返還は遠のくばかりと感じました。それこそ日本人や日本政府から「見捨てられた島」にしてはならないと強く思いました。



田中 保世

「北方領土」について、私は今回の平和行動に参加し、意識が変わりました。

元島民の方の不法に島を占領された時の辛い経験を聞いたり、セミナーで北方四島の美しい自然の写真を見せて頂き、「北方領土」は日本の大切な島であり、日本人一人一人が関心を持って、一日も早い四島返還の実現に向け、皆で政府に要望して行かなければいけないと思いました。

地域コミュニティの再興を担う

埼玉労福協主催 NPO訪問ツアー

9月27日(火)、埼玉労福協主催のNPO訪問ツアーに参加した。まず、「さいたま市市民活動サポートセンター」の概要説明を受けたあと、「さいたまシニアパソコン友の会」「配食サービスひまわり」「ヘルシーカフェのら&ひろば」「わんぱくクラブ」の4ヶ所の訪問見学、意見交換を行ったが、各団体とも活動されている方の顔が生き生きとしていたことに、とても興味が引かれた。皆さんが行っている活動は異なるが、それぞれがライフワークとして取り組んでいるように感じられた。これは、一般のサラリーマンにはあまりないことであり、金銭的な満足以上に精神的な満足が得られている結果と考える。



「さいたま市市民活動サポートセンター」でスケジュールの説明を受ける



「配食サービス ひまわり」の前で

また課題として見えてきたことは、高齢者や幼児を持つ親のコミュニティ、障がい者のケアと言った、社会的弱者への対応をどのように行っていくかと言うことが見えてきた。

これは、核家族化が進み、幅広い世代間の交流が薄くなってきていることも一因であると考えられるが、今までの隣近所の付き合いをNPOがどのように補填して行くかということにも当てはまるかと思われる。そういう意味では、今後NPOの活動が地域コミュニティの再興を担う一翼であると考えさせられた。

連合埼玉特別執行委員 増田貴也

労働者福祉中央協議会「第43次欧州労働者福祉視察」

労働者福祉中央協議会(労福協)の第43次欧州労働者福祉視察団の一員として、9月5日から9月15日まで3カ国に派遣された。

第一に訪問したのは、イギリス協同組合銀行とCIS保険会社が合併したCFS本部(イギリス・マンチェスター)。マンチェスターは近代的協同組合発祥の地でもあり、企業合併や再編など事業規模を拡大しているようで、本部近くの地域一体をCFS関連ビルが占めていることに視察団全員がびっくり。

第二の訪問先はスイス・ジュネーブにあるILO本部。2012年の国際協同組合年を通じて「協同組合についての社会的認知度を高める。協同組合の設立や発展を促進する。協同組合の設立や発展につながる政策促進のため政府や関係機関に働きかけることなどが重要」との説明がなされた。

第三の訪問先は、イタリア・パドヴァ市にある倫理銀行。1994年から労働組合や協同組合、NPOなどが設立運動と資金集めを行い、設立した歴史のある銀行。協同組合形式で運営され、国民から貯金を集めるが、融資先は、4つの社会的な事業に限られ、預金者はこの中から融資先と金利を選べるというユニークなもの。

第四の訪問先は、西欧最古の大学が創設され文教都市として有名なイタリア・ボローニャ市にある社会的協同組合カディアイ本部とそこが管理運営する公設民営の老人ホーム。社会サービスや高齢者ケア、保育園・幼児教育、障がい者サービス、企業向け労働安全衛生支援サービスなどの事業を行っている。

第五の訪問先は、同じくボローニャ市にある保険会社のユニポール。生命保険と銀行の機能を持つ会社であり、吸収合併しながら、イタリア全土の州に支店が展開できるようになったとの説明。

今回の視察は、これからの日本社会の有り様や協同組合、連帯経済・社会的経済を考える上で、大変勉強になった。また、主な移動は空路だったが、スイス・ジュネーブからは、列車でイタリアのミラノを経由、ボローニャへ入ったので、欧州の秋の風景にふれることもできた。さらに、欧州の高速道路では、土・日は特別な許可がないとトラックの通行ができないことや国民は三週間の夏休みを取得しなければいけないことなど、ファンタジー小説「モモ」(エンデ)を生み出したお国柄に感心の連続であった。

自治労埼玉県本部 山下弘之



国際労働機関ILO本部(スイス・ジュネーブ)



イギリスの空想的社会主義者「ロバート・オーウェン」像と



生命保険と銀行の機能を持つ保険会社「ユニポール」

連合関東ブロック連絡会 「第21回海外交流オーストラリア視察団」

私たち一行は、9月16日(金)、オーストラリア・シドニーに到着しました。

シドニーは、これから冬から春に季節を変える時期であり、まだ残暑を感じる日本から来た我々にとって、清々しい気候でした。飛行機による長旅の後、バスに揺られて向かったのは、「Transport Workers Union of NSW」(略称: TWU)への訪問視察でした。TWUは、輸送関連のドライバーによる労働者の組織である。事務所近くのホテル会議室の一室でコーヒーとスイーツを頂きながら、和やかなムードでのデイスカッションとなりました。(これがオージー風?)フレンドリーな関係で簡単に予定時間をオーバーしてしまいました。労働党(国)への働きかけ、キャンペーンとの位置付けのストライキなど、表立った話にも興味深いのであったが、特に共感が持てたのは、組合員平均年齢の高齢化、若者の労働組合への無関心と言った悩みを抱えているとのことでした。国は違えども同じステージで活動しているだけに相互理解は容易に出来るものでした。

2日日以降も、職場訪問などの視察をはじめ、見どころが沢山ありました。全体を通して、貴重な経験をさせて頂きました。この事は、自分の中で今後の組合活動に役立つものと思います。

連合埼玉執行委員 西野 雅也



TWUとの意見交換



「キャプテンクッククルーズ」の説明を受ける



1823年流刑囚に造らせた
オーストラリア最古の石橋
「リッチモンド橋」をバックに



オペラハウス



鶴谷副事務局長(左)と西野執行委員(右)

9月16日早朝、生まれて初めてのオーストラリアに様々な期待をし、その地に足を踏み入れました。到着した早々、市内見学。初めて見た「オペラハウス」に感激、オーストラリアに来たんだなあ実感しました。

今回の視察は「Union NSW」「Captain cook Cruises」「JETROシドニーセンター」の3カ所を訪問しました。訪問先では、それぞれの労働事情などの説明をして頂き、意見交換を中心に交流をはかりました。

特に印象に残ったのは、Union NSW(輸送に関わる全ての人の組合)との意見交換で、個人事業主までもが組合に加入しており、その割合は3割もあるそうです。また、組合員の平均年齢が52~53歳であり、若手が少ないのが現状で、若い人に労働組合の魅力を感じてもらおうのが、一番の課題であるそうです。少子高齢化の関係も若干はあるのだろうが、今の若者は、ライフプライベートに重きを置いて、この労働組合に興味を持たない人が増えてきたそうです。この問題を解決するために若者を積極的に組織化して、若い人が若い人を組合に勧誘するキャンペーンを展開する予定だと言っていました。日本の場合は、非正規の増加など、様々な影響で若者離れが進んでいるが、少なくとも若い組合員を増やさなくてはならないことは、共通の悩みであると感じました。

連合埼玉副事務局長 鶴谷一仁

～埼玉県最低賃金の改正について～ 必ずチェック最低賃金！ 使用者も、労働者も

埼玉県最低賃金は、県内すべての労働者とその使用者に適用されます。
この金額は、賃金や物価等の動向により決定されるもので、さまざまな面での労働条件の改善に重要な役割を果たしています。
本年は10月1日から時間額759円(昨年より9円UP)に改正されました。
なお、特定の産業については特定(産業別)最低賃金が適用されます。

■埼玉県最低賃金額

時間額 759円
(平成23年10月1日発効)

●詳しくは埼玉労働局賃金室
(電話048-600-6205)
または最寄の労働基準監督署へ
お問い合わせください。

産業別	時間額(円)
非鉄金属製造業	824
電気機械器具製造業、情報通信機械器具製造業、電子部品・デバイス製造業	828
輸送用機械器具製造業	837
光学機械器具・レンズ、時計・同部品製造業	836
各種商品小売業	796
自動車小売業	837

(平成23年12月8日発効予定)

11月は「労働時間適正化キャンペーン」期間です。

厚生労働省では、11月を「労働時間適正化キャンペーン」期間としています。長時間労働の抑制等の労働時間の適正化に向けて労使が一体となって取り組んでいきましょう。

現状の課題

労働時間等の現状をみると、週の労働時間が60時間以上の労働者の割合は減少傾向にあるものの平成22年には増加に転じ、依然として高い水準で推移するなど未だ長時間労働の実態がみられます。また、脳・心臓疾患に係る労災認定件数は平成22年度においても285件にのぼるなど、過重労働による健康障害も依然多い状況にあるほか、割増賃金の不払いに係る労働基準法違反も後を絶たないところです。



長時間にわたる過重な労働は疲労の蓄積をもたらす最も重要な要因です。

時間外・休日労働が月45時間を超えて長くなるほど、業務と脳・心臓疾患の発症との関連性が強まります。

労働基準法に違反する、賃金不払残業は、あってはならないものです。

埼玉シニア連合第1回ボウリング大会開催

優勝は「郵政退職者会」

10月2日(土)、13チーム49名の参加者と事務局8名の計53名の参加を得て、浦和スプリングレーンズで行いました。



レディースチームも大活躍でした

幹事よりも早く見られる方もいて、事務局があせったのは内緒ですが、生方会長の「張り切りすぎて腰を痛めないよう、楽しくプレーしてください」との開会挨拶と始球式で始まり、和気藹々とした雰囲気の中、短い時間でしたが、日曜日の一時、楽しくかつ真剣なプレーが繰り広げられました。皆さん、久しぶりのプレーだったようで、なかなかスコアが伸びなかったようですが、仲間のプレーに一喜一憂し、笑顔の中、ボウリングを楽しんでいただけたと思います。

幹事会としては、今後も、こうした交流を大切にしていきたいと考えていますので、皆様のご協力をお願いいたします。



表情も真剣です

東日本大震災義援金カンパ活動

9月29日(木)午後6時から浦和駅で、東日本大震災義援金カンパ活動を実施しました。今回は、連合埼玉青年委員会と女性委員会のみなさんにもご協力いただき、西口と東口の2カ所でカンパを呼び掛けました。

今回も多くの方が募金に協力してくださり18,031円集まりました。ありがとうございました。



浦和駅東口



浦和駅西口

= もうすぐ選挙 =

川口市議会議員選挙

◆安田 茂(やすだ しげる)
42才(民主党・現1・連合埼玉推薦初)
告示日:2011年10月30日(日) 投票日:2011年11月6日(日)

桶川市議会議員選挙

◆佐藤 洋(さとう ひろし)
63才(民主党・現1・連合埼玉推薦2回目)
◆新島 光明(にいじま みつあき)
60才(社民党・新・連合埼玉推薦初)
告示日:2011年11月13日(日) 投票日:2011年11月20日(日)

朝霞市議会議員選挙

◆佐野 昌夫(さの まさお)
69才(民主党・現3・連合埼玉推薦3回目)
告示日:2011年11月27日(日) 投票日:2011年12月4日(日)

上尾市議会議員選挙

◆池野 耕司(いけの こうじ)
61才(民主党・現1・連合埼玉推薦初)
◆浦和 三郎(うらわ さぶろう)
62才(民主党・新・連合埼玉推薦初)
◆武藤 修(むとう おさむ)
46才(民主党・現1・連合埼玉推薦初)
◆町田 皇介(まちだ こうすけ)
31才(民主党・新・連合埼玉推薦初)
告示日:2011年11月27日(日) 投票日:2011年12月4日(日)

現在予定される11月の日程表です

11月	行事等	
	連合埼玉・事務局	地協・産別・労福協・福祉事業団体・県・上部・外部団体
1日	火	
2日	水	
3日	木	①県央地域協議会政策研修会(14:00～・ホテル木暮) ②秩父地域協議会代表者会議(14:30～ 4日・石和常盤ホテル)
4日	金	教育PJ(13:30～・連合会議室)
5日	土	
6日	日	①埼玉フード連合第10回代表者総会(10:00～・大宮ソニックシティ601号室) ②川口市議会議員増員選挙投票日
7日	月	四役・執行委員会(ときわ会館)
8日	火	シニア連合四役会議(15:00～・連合埼玉会議室)
9日	水	
10日	木	教育フォーラム2011(13:30～・ときわ会館大ホール)
11日	金	埼玉県私鉄第36回定期大会(11:00～・東武鉄道春日部支部会議室)
12日	土	
13日	日	①日教組「埼玉教育研究集会」(9:00～・国立女性教育会館) ②桶川市議選挙告示
14日	月	JILAF「海外若手労組指導者招聘事業アフリカ仏語圏チーム訪問」(~15日)
15日	火	埼玉労福協「第12次東南アジア労働福祉視察団」結団式(16:00～・ときわ会館)
16日	水	中央労働金庫創設十周年記念祝賀会(14:00～・ホテルラングウェット)
17日	木	第12回定期大会・躍進パーティー(10:00～・浦和ロイヤルバインズホテル)
18日	金	
19日	土	
20日	日	桶川市議選挙投票日
21日	月	ときわ会館企画委員会(9:00～・ときわ会館)
22日	火	
23日	水	
24日	木	①埼玉シニア連合第15回定期総会(14:00～・あけぼのビル501) ②女性委員会第8回幹事会(18:00～・連合埼玉会議室)
25日	金	①青年委員会第11回幹事会(13:00～・あけぼのビル501) ②青年委員会第23回定期総会(15:30～・あけぼのビル501)
26日	土	
27日	日	ユニオン連合定期大会(14:00～・あけぼのビル501)
28日	月	①朝霞市議選挙告示日(投票日12/4) ②上尾市議選挙告示日(投票日12/4)
29日	火	①ときわ会館理事会(10:00～・ときわ会館) ②埼玉県地方産業教育審議会(10:00～・埼玉知事公館)
29日	火	埼玉労福協「第12次東南アジア労働福祉視察団」(~12/3・韓国)
30日	水	連合地方連合会代表者会議

あけぼのビル

事務局長 佐藤 道明

連合埼玉は11月17日に第12回定期大会を開催する。2012～2013年度の運動方針は、10月6日開催の第11回執行委員会で議論をし、さらには地協ブロック連絡会で出された意見を踏まえ、11月7日開催の第12回執行委員会で運動方針(案)を決定し、大会に臨む。本号では、役員の方々ととの共通認識をはかるため、運動方針(素案)における「われわれを取り巻く情勢と課題」と「運動の基調」について記述する。

◆われわれを取り巻く情勢と課題(要約)

日本経済は、バブルが崩壊して以降、約20年もの長期にわたって低迷を続けており、デフレ経済を未だに脱却できずにいる。このデフレをいかに脱して持続可能な成長軌道を取り戻すかが大きな課題である。しかし、長期化するデフレの下、対米ドルの為替レートは想定を超える円高となっている中で一層停滞色を強め、大震災がもたらした被害はわが国全体の経済にもさらに深刻な影響を与えている。

大きく成長するアジアの中にあつて、日本だけが低迷する大きな原因は、円レートの高騰や資源制約要因などに加え、新たな産業分野が成長していないとの指摘もある。わが国の優れた技能・技術力、現場力を生かし、それを高めていくとともに、成長が期待される分野や競争力が発揮できる産業でディーセント・ワークとしての雇用機会の創出をはかりながら、産業力の強化をはかっていく必要がある。加えて、産業政策と連動した人材育成を含む雇用政策も不可欠である。

一方、わが国は持続可能性を脅かす構造問題に直面している。自立できない低賃金労働の著しい増加、若者の失業と貧困、13年連続で3万人を超える自殺者など、もはや看過できない課題は枚挙の暇がない。最大の問題は、少子・高齢社会の急速な進行であり、出産・子育て支援など包括的な少子化対策が急務である。

これまでわが国の経済社会の発展を支えてきた労働力の供給構造にも極めて大きな変化が起きはじめている。高齢者を支えるはずの労働力人口も確実に減少するとみられており、このままでは、経済の縮小とともに社会保障制度の維持も危機的な状況に陥ることが予測される。

◆運動の基調・基本的な考え方(要約)

(1) 東日本大震災からの復興・再生に向けて、引き続き総力を挙げることを、連合埼玉全組合員の総意として確認する。何よりも、震災からの復興・再生の軸には「雇用と生活の再建」が据えられなければならない。そのためには、

被災地の産業の復興・再生も不可欠である。当然、震災以前から日本の社会・経済全体が直面してきた少子超高齢化・人口減少や非正規労働者の増大と雇用の二極化、貧困の増大、危機的な国家財政といった課題の解決も待たないであり、震災からの復興・再生に取り組む中から、社会・経済や生活スタイルを見直すとともに、日本全体の再生をめざす。

(2) 連合が提起する「働くことを軸とする安心社会」の意義および労働運動、労働組合の役割と使命を組織全体で再確認する。様々なステークホルダーとの対話を積極的に繰り返し、「安心社会」を社会全体で共有できるよう合意形成をめざす。同時に、その実現に向けた政策・制度の取り組みを強化し、「安心社会」の実現に向けた行動を連合埼玉全体で強力に展開する。

(3) すべての働く者の連帯をめざした社会的な運動を展開する。そのために、「20万連合埼玉」をめざし、組織の総力を結集して組織拡大をはかり、集団的労使関係を確立することで、労働運動・労働組合が社会的インフラとしての役割を発揮する。

また、志を同じくする幅広い人々や組織、団体との連携もはかり、わが国の社会運動を推し進める軸となることをめざす。

◆運動の基調・運動の機軸(要約)

(1) 東日本大震災の被災地の復興・再生と被災者支援に全力を尽くすとともに、「働くことを軸とする安心社会」実現をめざす。

(2) 民主党埼玉県連や県議会党派「民主党・無所属の会」等との政策協議・連携を通じて、引き続き、働く者の立場から、政策・制度要求の実現をめざす。

(3) すべての働く者の労働条件の底上げ・復元と賃金の社会的横断化の促進、雇用セーフティネットの拡充、ワークルールの確立によりディーセント・ワークの実現をめざす。

(4) 少子高齢社会、生産年齢人口が急激に減少する中で、男女平等参画社会と均等・均衡待遇の実現を急ぎ、労働時間の短縮とともに、働き方やライフスタイルを改革し、ワーク・ライフ・バランス社会を実現する。

(5) 非正規労働者を含めた組織化の推進、社会的インフラとしての労働組合づくりと集団的労使関係を構築すること、地域に顔の見える労働運動の展開、労働者福祉事業や関係団体、NPOなどとの連携により運動を推進する。

(6) 持続可能な社会の構築には、労働組合と労働運動が不可欠であり、常に労働組合の担い手の人材育成に取り組まなければならない。労働者自主福祉運動を含む労働組合のリーダー育成を推進するため、連合埼玉独自の「組合役員教育プログラム」によるリーダーのスキルアップと育成支援を進める。

2011.10.25